

1) 現況施設・植栽

② 植栽の現況

植栽樹木の現況について広場ごとにまとめたものを以下に示す。公園設置当時から残る保存樹木ヒマラヤシーダーや成長の早いケヤキなどは巨木化し、ボリュームある緑の景観を創出している。その一方で樹勢の悪い常緑広葉樹や樹林中低木など景観上好ましくない樹木がみられた。

<にぎわいの広場の植栽現況>



① 新本庁舎敷地内広場・表小路線との一体利用と見通しの確保やグリーンインフラの効果に配慮した改修を要する並木。



② 常緑高木（タブノキ）の並木だが、樹勢・樹形ともに良好な状態とは言えない。



③ ステージの背景をつくり出している生垣と高木の列植は良好。ステージ脇の高木と低木植栽が、新本庁舎から南に延びる軸線に干渉する。



④ 市民広場の南側を縁取る緑としては樹形・樹勢が悪く美観的にも好ましくない。



⑤ 常緑高木（タブノキ）の並木だが、樹勢・樹形ともに良好な状態とは言えない。



⑦ 巨木化しつつあるヒマラヤスギ（保存樹林）によりボリュームとスケール感のある緑の景観を作り出している。歩道に近接していることから大木の倒木、枝折などによる歩行者への被害や交通への影響が懸念される。植栽地内は暗く、林床は緑のボリュームと彩りに欠けている。

<いこいの広場の植栽現況>



② 斜面地形を生かした中低木の植栽となっているが、周辺高木の影響で生育状況は芳しくない。



⑧ ベンチ利用者のために木陰を提供する樹木であるが、寒冷地に向かない常緑樹であり樹勢・樹形共に芳しくない。



④ 大木化した樹木で構成され、杜の都を象徴するにふさわしい樹林景観を呈している。常緑針葉樹よって樹勢・樹形とも芳しくない落葉樹が見られ、人の立入りも加わって中低木類のない硬い土の林床となっている。



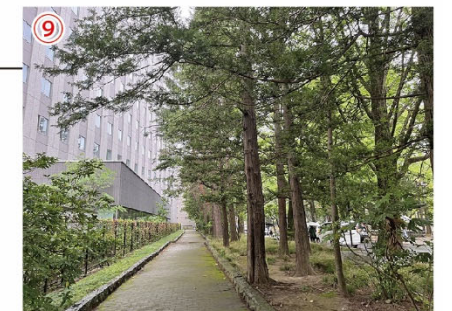
⑤ ヒマラヤスギを主構成木とした保存樹林で広場の背景林となり、沿道にも緑の景観を提供している。常緑針葉樹主体であり、林床植物の少ない暗い林となっている。



③ 野外ステージは老朽化しているものの、観客席を覆うケヤキの樹冠や周辺の林によって、森のステージとしての趣を呈している。



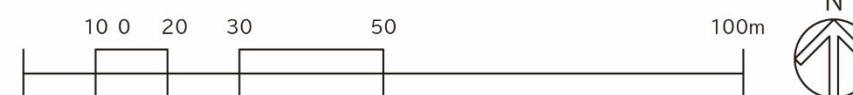
⑩ 大きく育っているが、段丘上からの眺めを遮っている樹木。



⑨ 広場東側植栽と一体となって、ボリュームある緑の景観をつくり出している植栽帯。



⑦ 時間の経過とともに段丘斜面にふさわしい植物が出現してきている。



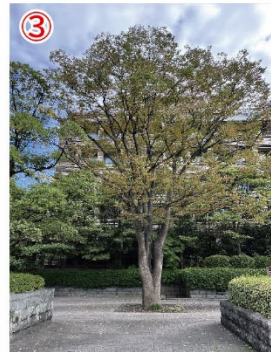
<歴史の広場の植栽現況>



① 勾当台通に対しボリュームのある緑の景観を提供している。交差点部の植込みにより、広場への誘導性と交差点の滞留性を低下させている。



② 広場の印象を悪くしている樹形、樹勢が芳しくない樹木。



③ 広場の中でアイストップとなり、勾当台通歩道からの目印になる樹形の良いケヤキの大径木。



④ バス停に対し緑の景観を提供し、緩衝帯としての機能を持っているが、石積みが高くサツキー色の単調な植栽。



⑤ 背景の建物（宮城県庁）の足元を縁取り、南へと連なるボリュームある緑の帯をつくり出している。石垣天端の植栽（つる植物）が単調、彩に欠ける。



⑦ 古地図広場のスケールに呼応したボリュームがあり、シンボリックな緑の景観をつくり出している。大きく樹冠を広げた木々により、植栽地全体が暗く、石垣天端も単調な樹種構成となっている。



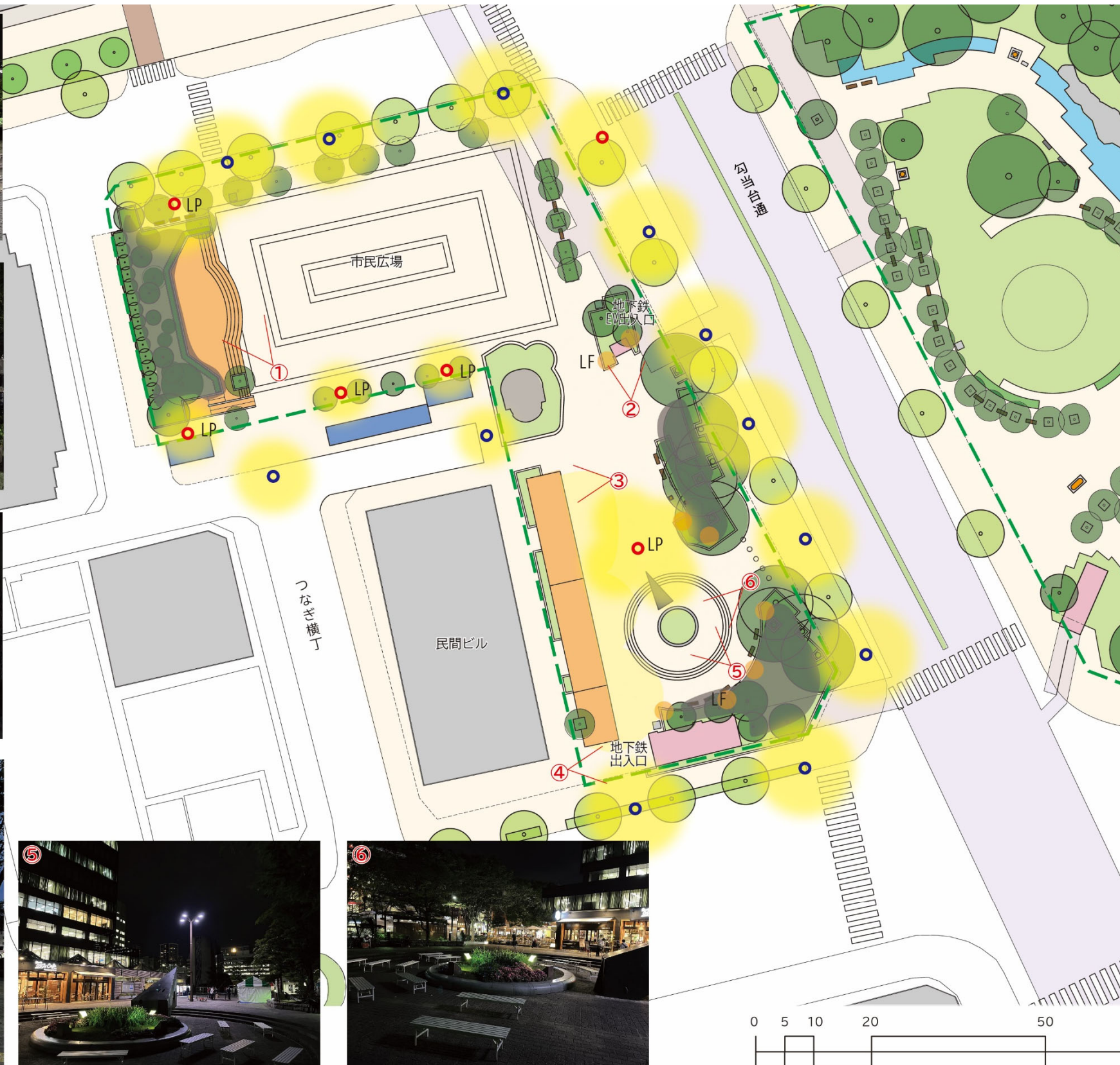
1) 現況施設・植栽

③ 照明施設の現況

公園内の現況照明について広場ごとにまとめたものを以下に示す。

公園外縁部は周辺道路照明や隣接するビルのあかりにより明るさを感じるものの、園内は主に庭園灯(高さ 1.2m~0.9m)による夜間照明となっており、全体的に暗い印象となっている。

<にぎわいの広場の現況照明>



<周辺からのあかり>

- ・勾当台通の道路照明及び周辺の建物から入ってくるあかりがあるが、道路沿いの広場は、公園や歩道の豊かな緑に遮られ地面までそのあかりが届いていない。

<公園内のあかり>

- ・ポール照明 (LP) は直下のみ明るく、全体的に園内は薄暗い。
- ・庭園灯 (LF) は点灯しているが、かすかなあかりで周囲を照らしていない。
- ・広場を明るくするポール照明 (LP) (4 灯) はカフェ前のみ設置されている。
- ・カフェ前はポール照明 (LP) とカフェの照明 (室内外) や民間ビルの窓明かりで明るい空間になっている。

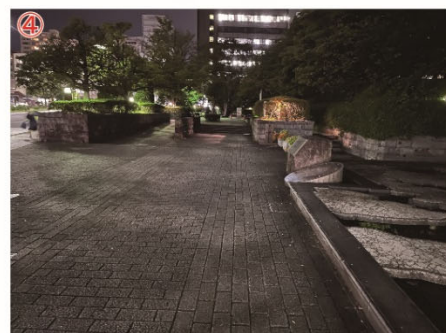
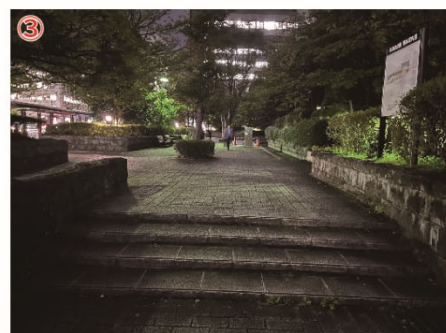
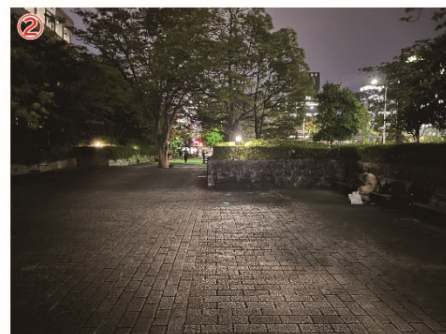
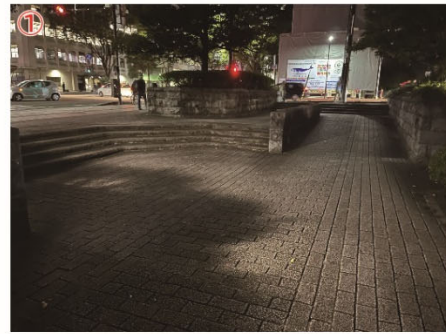
凡例

- 暗い場所
- ポール照明 (LP)
- 庭園灯 (LF)
- 道路照明 (敷地外)

<いこいの広場の現況照明>



<歴史の広場の現況照明>



<周辺からのあかり>

- ・勾当台通からの道路照明及び県議会庁舎から入ってくるあかりがあるが、公園や歩道区間の豊かな緑に遮られ広場内（植栽がある区間）では、広場内までそのあかりが届いていない。

<公園内のあかり>

- ・ポール照明 (LP) は下のみスポット的に明るく、全体的に薄暗い。
- ・庭園灯 (LF) は点灯しているが、照度が低く周囲を照らしていない。
- ・階段の段差を認識できるほどの十分な照度がない。
- ・人の近くまで寄らないと顔が見えない。
- ・ライトアップ灯、サーチライトが地下鉄出入口側面にあるが、演出効果はない。

凡例

- 暗い場所
- ポール照明 (LP)
- 庭園灯 (LF)
- 道路照明 (敷地外)
- ▲ サーチライト

1) 現況施設・植栽

④ 景観分析

公園や周辺街並み景観を望むことのできる視点を、視点場1(いこいの広場・平和祈念像)、視点場2(新本庁舎(低層))、視点場3(新本庁舎(高層・東望))、視点場4(つなぎ横丁)、視点場5(新本庁舎(高層・南望))の5か所に設定して、それぞれの景観(視界)の広がりや景観要素を把握した。また、水景施設、岩組み、彩植栽、石垣など勾当台公園ならではの特徴的な景観を抽出した。



⑦つなぎ横丁から市庁舎への軸線



一番町商店街と定禅寺通の交差点からは、つなぎ横丁から市役所まで見通すことができる。

⑧つなぎ横丁



つなぎ横丁歩道からは街路樹もあり、市役所を視認することはできない。

⑨つなぎ横丁入口



市民広場入口周辺は、地下駐輪場への出入口シェルターや車止め、照明柱、柵等交などが建ち並び、エントランスとしての趣が感じられない。

⑩ステージ



広々とした市民広場は、イベント時にはにぎわいの景観をつくり出し、そのまわりのケヤキやヒマラヤスギ等が豊かな緑の景観をつくり出している。

視点場 4

つなぎ横丁から新本庁舎方向を見通す視点場
新本庁舎までの通景が街路樹や自転車置場入口などによって阻害されている。

視点場 5

新本庁舎から、公園(歴史の広場と憩いの広場)方向を俯瞰
県庁、合同庁舎の足元にボリュームある緑の景観が広がる。

凡例

- 視線の先が植栽
- 視線の先が建物



⑪壁泉への眺め



壁泉の存在を強調している芝生地や花壇など壁泉前景の設え。背景には大きく成長した樹木がそびえ合同庁舎建物の足元を縁取り、いこいの広場を象徴する景観を創り出している。

⑫噴水-平和祈念像(仙台城への軸線と同じ)



平和祈念像に向かう軸線上に配列された水景施設の景観。

⑬岩組沿いの軸線



時間の経過の中で岩組上部(段丘上)の植栽樹木が大きく成長し鬱蒼としてきており、設計意図を踏まえた植栽管理が望まれる。

⑭岩組沿いの軸線



岩組から出る低木、草本植物や水路際の草本植物がバランスよく維持されて、庭園的景を醸し出している。

⑮段丘からの眺め



壁泉左手から南側を俯瞰した景観で、背景となるヒマラヤスギなどの大木が、緑豊かな公園のイメージを醸し出すと同時に、日を浴びた明るい芝生と花壇を際立たせている。

⑯野外ステージからの眺め



野外ステージ上からは、樹冠で覆われた観客席の景観が広がり、いこいの広場ならではの体験が味わえるステージとなっているが、その奥の背景が明るく野外ステージとしての圍繞感に欠ける。



2) 各種調査等

①公園実態調査

利用実態調査の概要

<調査目的>

①広場入口での出入り調査

勾当台地区での人の流れ（動線）の中で、3つの広場への出入り利用について定量的に把握する。

②各広場の利用状況調査

3つの広場での活動や利用のされ方を把握する。

<調査方法>

①定量的に把握するため、各広場の出入口を通過する人数をカウントする。

調査時間帯は、8:00、12:00、17:00の各20分間

②目視による利用状況の観察調査で、滞留している場所などを図に記録する。

調査時間帯は、10:00、12:00、15:00、17:00の時間帯

<調査日>

2022年10月14日（金）、15日（土）

※15日はイベント（10時～18時 餃子祭り）が開催されていた。

にぎわいの広場

(公園出入り人数)

	平日 (人)	休日 (人)
南地下鉄口	170	929
つなぎ横丁口	0	845
E V 口	0	47

<人の流れ>

- ・広場への出入りが多いのは、平日、休日とも南地下鉄口である。
- ・平日は、地下鉄出入口の利用はあるが、公園利用者ではなく通勤利用者とみられる。
- ・休日は、定禅寺通から公園に出入りする「利用者が多く、地下鉄出入口の利用は少ない。」

<利用状況>

- ・平日は、周辺オフィスワーカーの休息、昼食の場としての利用が多くみられた。
- ・休日は、広場内のベンチがフルに使われていた。
- ・人目につきにくい場所での喫煙利用が見られた。

E V 口

- ・平日、休日ともに、午前・午後・夕刻の各時間帯（20分間）で10人程度のわずかな利用であった。

ステージ

- ・平日は午後、休日は10～15時 階段に座っての休憩や飲食（2～3人）による利用が見られた。

つなぎ横丁口

- ・休日は、南地下鉄口と同程度（845人/日）の多くの人の出入りがある。
- ・平日は、殆ど利用されていない。

ベンチ・石積み

- ・平日はベンチだけでなく、植込み縁の石積みに腰掛けて一時の休憩をとる利用がある。

時の広場

- ・平日は周辺のベンチ利用だが、休日は彫刻周りの広場を埋め尽くすほどの利用がある。

にぎわい南地下鉄口

- ・休日は、公園出入り人数が最多となる入口。
- ・平日は、地下鉄出入口からの公園への利用があるが、休日は、定禅寺通からの出入りが圧倒的に多くなる。

	平日	休日
地下鉄口利用率	76.9%	27.9%
公園出入り利用率	38.5%	83.3%

●地下鉄口利用率 / 調査地点を歩き交う人のうち、地下鉄出入口を利用する人の割合

地下鉄出入口を利用した人数 / 調査地点（公園入口）を通過したすべての人数 ×100

●公園出入り利用率 / 調査地点を歩き交う人のうち、公園に出入りする人の割合

調査地点（公園入口）から公園に出入りした人数 / 調査地点（公園入口）を通過したすべての人数 ×100

歴史北口

- ・平日は、通勤・退社時の出入りが多い。
- ・休日は、公園への出入り利用は少なく平日の1/5に満たない。
- ・公園入口を使って北側歩道から交差点、バス停へのショートカットする通行が見られる。

ベンチ

- ・平日は、主に昼休みに昼食、休憩で使われている（ベンチ1人使い）
- ・休日は、2～3人/hの休憩利用。喫煙利用もあり（3～5人程度/日）

- ・歩道、バス停からの公園への出入りはほとんど見られない。

歴史南地下鉄口

- ・平日は、周辺オフィスワーカーの出入りが最も多い地下鉄出入口で、そのほとんどが公園敷地内を通り周辺に向かう流れとなっている。
- ・休日は、この入口の利用は少なく、平日の1/5である。

	平日	休日
地下鉄口利用率	89.9%	50.0%
公園出入り利用率	73.8%	21.9%

歴史の広場

(公園出入り人数)

	平日 (人)	休日 (人)
南地下鉄口	499	102
北口	318	60

<人の流れ>

- ・平日は地下鉄出入口が使われているが、公園利用者ではなく、ほとんどが通勤利用者である。

<利用状況>

- ・平日、休日とも、通行利用が殆どで、ベンチ利用など滞留の利用は平日、休日とも少ない。

いこいの広場

(公園出入り人数)

	平日 (人)	休日 (人)
南地下鉄口	157	921
東口	45	140
北口	163	99
北まち角	55	176

<人の流れ>

- ・平日、休日ともに南西交差点横断歩道からの利用者が圧倒的に多い。
- ・平日は、南地下鉄口から北口への通勤動線の人の流れが見られる。

<利用状況>

- ・平日は、周辺オフィスワーカーの休息、昼食の場としての利用が多くみられた。
- ・休日は、広場内のベンチがフルに使われていて、壁泉周辺や樹林内に溢れ出ている。
- ・人目につきにくい場所での喫煙利用が見られた。特に樹林地での喫煙は常態化している。

野外ステージ

- ・平日は、午後周辺オフィスワーカーの休憩、昼食の場所。
- ・休日は、来園者の飲食の場所。

ベンチ

- ・平日は、少数だが、ベンチでの休憩利用がある。
- ・休日は、来園者の飲食場所としてフルに利用されている。

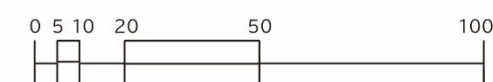
凡例

- 公園出入口
- 人の滞留が見られた場所
- イベント時に多くの人が滞留していた場所
- 喫煙が常態化している場所
- 平日の人の流れ
- 休日の多くの人の流れ
- 休日の人の流れ

いこい南地下鉄口

- ・休日は、公園出入り人数が最多となる入口。
- ・平日は、公園への出入りがにぎわいの広場側（西横断歩道）からの利用が多いものの、殆どは県庁への通勤利用者である。
- ・平日、休日とも地下鉄出入口利用は殆どない。

	平日	休日
地下鉄口利用率	4.4%	1.3%
公園出入り利用率	43.2%	76.9%



2) 各種調査等

②意見交換会

1. 目的
2. 意見聴取先及び内容
 - ・ イベント主催者(5者) : イベント等での利活用をするうえで必要な設備や備えについて
 - ・ 観光業界関係者(4者) : 魅力的な公園を生み出すためのブランディングについて
 - ・ まちづくり関係者(7者) : 都市デザインの観点から、公園の役割(公園デザイン)、公園の歴史(地歴)や文化の保存と継承、エリアマネジメントによる公園での官民連携について
3. 実施日
 - ①令和4年7月26日: イベント主催者(3者) ②令和4年7月26日: まちづくり関係者(6者) ③令和4年7月27日: 観光業界関係者(2者) ④令和4年7月29日: 観光業界関係者(2者)
 - ⑤令和4年9月26日: イベント主催者(1者) ⑥令和4年9月27日: イベント主催者(1者) ⑦令和4年9月30日: まちづくり関係者(1者)

分野	意見内容					
	イベント等での利活用	必要な設備や備え	魅力的な公園を生み出すためのブランディング	公園の役割(公園デザイン)	公園の歴史(地歴)や文化の保存と継承	エリアマネジメントによる公園での官民連携
【イベント主催者】	<ul style="list-style-type: none"> ● 県民会館の代替として市民広場ステージや野外音楽堂をプロのコンサート等で使用したい ● 市民広場ステージ後方の樹木が見苦しい ● 野外音楽堂を見栄え良く改修して欲しい ● 10t車搬入可能な舗装構成として欲しい ● いこいの広場はフラットに整備して欲しい(特に危険な下段の噴水2箇所を撤去)、滝の前は景観的にも良い ● 地下鉄の換気塔とエレベーターの出入口が、来場者の動線を妨げている ● 入場制限が容易な備えがあると良い(コロナ対策) ● 有料区画を分けられる設えにして欲しい(いこいの広場上段部は区画分けし易い) ● 備品を仙台市で確保し貸出しから設置までして欲しい ● アークード内にあるような七夕飾りの支柱アンカーを、公園内にも整備すれば回遊性が生まれ、魅力が向上する ● 芝生広場はイベント時に養生が必要となり利用しにくい、野外音楽堂周辺に芝生を整備すれば観客が演奏を座って観ることができて良いと思う ● 新庁舎北側にバスを停車させ、観光客を南下させるようなことができれば新たな回遊動線が生まれる ● 新庁舎南側を開放的にして、バスの停留所として利用できれば新たな回遊動線が生まれる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 昇降可能なルーフトラス(舞台屋根システム)の設置 ● 市民ステージに屋根が欲しい、元鍛冶町公園のような屋根が良い ● 県民会館の代替地としての使用も想定した設備の整備(音響や照明用のパトン、エアコンルーム等) ● 野外音楽堂ステージの面積拡充 ● テントブースに電気が供給できる分電盤の設置 ● 機材などを設置できないエリアを明示して欲しい ● トイレの数が不足している、綺麗なトイレを増設して欲しい ● 現在の電源では不足している、電源の数や容量を増やしてほしい ● 通常時は地面に格納されていて、イベント時に使用できるようなフットライトや、テント設置用のアンカーがあれば良い ● ステージにバグヤードは必要。広さや高さを柔軟に変更できる仕様にして欲しい、高さをもう少し高くして欲しい ● いこいの広場の売店を改修し、魅力的な飲食店の導入 ● いこいの広場の上段部をイベント、下段部をいこいの場として利用してはどうか ● カフェ等いこえる施設が必要、公園内に荷物を預けられる施設があると良い ● ステージが地下鉄排気塔側にもあると良い(音の重複に配慮し北側向きに) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 古岡広場は設えを変えて活かせれば良い。歴史に特化した広場としてアピール、椅子などを置いて憩い休憩できるような場所に 	<ul style="list-style-type: none"> ● 野外音楽堂の向きは南向きが良い、今の位置だと滝の音と演奏音が重複し聴こえないことがある ● 市民広場のステージは東西向きに配置した方が良い(騒音問題等を考慮) ● 市民広場はステージを無くしてフリースペースとした方が良い(多様な利用を想定) ● 歴史の広場は周囲から見通しが確保できるよう、開放的に整備が必要 ● 古岡広場を撤去し広場化して欲しい ● 入れる芝生エリアがあると良い ● 3つの広場をつなぐペDESTリアンデッキや歩道橋を設置 ● 交差点周辺は人が溜まるため広く面積を確保して欲しい ● 野外音楽堂周辺の水捌けが非常に悪いので、排水施設の整備が必要。夜間暗くて危険なので照明施設も必要 ● いこいの広場は回遊できるようにして欲しい(ベンチを増設し、くつろげる空間づくり) 	<ul style="list-style-type: none"> ● ヒマラヤシーダーは無秩序に植栽されているイメージ、更新や間引きが必要。公園内の見通しも良くなる ● ヒマラヤシーダーを残すのであれば、説明板や際立たせる演出があると良い 	<ul style="list-style-type: none"> ● 管理運営は民間事業者任せ、柔軟な制度を構築させる(PFI方式を積極的に活用) ● 市民広場のステージと野外音楽堂を有料とする運営の目標像を設定してから手法を検討
【観光業界関係者】	<ul style="list-style-type: none"> ● 市役所に隣接しているため、来訪者が安心して利用できる公的なイベントが合う ● 国際色豊かな物産展などを開催し、誘致に向けた情報を発信 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地下鉄の出入口、エレベーターとエスカレーター等がわかるサインが無い ● 椅子を貸し出して、好きな場所でくつろいでもらう仕掛け ● カフェ等いこえる施設が必要 ● 公園内に荷物を預けられる施設があると良い・イベント時と災害時に利用可能な電源設備・トイレ・水道施設を整備 ● 全ての施設をマップに落とし込んで、QRコードなどを活用し、公園の全体像がわかるコンテンツを設置 ● Wi-Fiを公園内に整備し、観光客が正しい情報をすぐ得られるように ● 外国人向けのマップも必要、災害時用に英語表記のサインを設置し観光客が安心して訪れることができるように ● トイレを美しく、誰にでも使いやすい仕様に整備するべき(災害時使用可能なトイレや、男女区別のないトイレの整備) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 周りが自然に囲われている、といった特徴づけをアピールすれば、ブランディングの可能性は有る ● 野外音楽堂をブランディングするのであれば、「日本一の野外音楽堂」といえるような設えにするくらいのインパクトが必要 ● エリアブランディングの手法として、東京都内ではエリア全体をフィールドと見立て、エリア内をゾーニングして、その中で「公園」といった位置付けでイベントをするケースもある ● 公園だけの集客は難しいので、エリアで呼び込む方が人は集まる ● 勾当台公園は、エリアの拠点としてどんな立ち位置かを明確に設定するべき ● 基本構想からは、どんな人を呼びたいのかターゲットが見えないので、少しでもターゲットを絞って考えた方が良い 	<ul style="list-style-type: none"> ● 杜の都らしく、木製のベンチを設置するべき ● いこいの広場上段部から公園内が見渡せるよう、円形広場のベンチの向を逆に設置 ● いこいの広場に休める場所が少ない、誰もが使いたいと思う「いこい」のコンテンツを導入 ● 全体的に死角が多い、見通しが確保されれば訪れる人も増える ● ナイトイベント開催など、ライトデザイナーと一緒に明かりの使い方を検討。照明は観光面においても重要 ● 公園内を回遊することで、楽しみながら学べる公園に ● 市民のいこいに特化した公園に(市民が楽しめない公園では、市外から人は来ない) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 勾当台公園の良さを、仙台市民がわかるような設えを ● 定禅寺跡や、今も残る広瀬川河岸段丘など資源の視覚化・文字化により来園者に発信すべき ● 「表小路」「北四番丁」「勾当台」「定禅寺」など周辺の地名が分かるコンテンツの設置 ● 仙台城下の屋敷林の樹木(柿や栗など実のなる樹木)、屋久根などの樹種を公園内に植栽し再現 ● 勾当台公園周辺は、仙台の歴史が詰まった場所。伝える工夫を検討してほしい ● 古岡広場は、藩政時代の仙台の街並みがよく分かる ● 階段の一部を木製にして定禅寺の名残を再現、三越前のヒマラヤシーダーは、過去のクランク解消工事の頃から唯一変わらず残っている保存すべき樹木 	<ul style="list-style-type: none"> ● 受益者負担(公園利用者がお金を支払う)を念頭に、飲食サービス等の導入を検討
【まちづくり関係者】	<ul style="list-style-type: none"> ● 今以上のにぎわいを求めるなら、市民広場だけでは受け入れ不可能 	<ul style="list-style-type: none"> ● 広場の使用料を曜日別に変える ● 東北6県をPRするような施設が公園内にあれば良い ● 公園内の好きな場所でくつろげるよう、椅子の貸出しやパークファニチャーなどを導入 ● 勾当台公園は普段市民が使い、市民が作っていく場所。イベントスペースでは無い ● 誰もが使いたいと思う「いこい」のコンテンツを取り入れないと人は憩えない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 最初にターゲットをしっかりと決めてから、ブランディングを検討 ● 勾当台公園のポジションを明確にするべき(市内の公園として・エリアとして) ● 勾当台公園再整備事業は青葉通の広場化と組んで考えるべき ● 観光客も注目し経済効果が出るような目標の設定 ● 公園内のエリアの枠組みを取り払い、『一つの公園』としてブランディングを考えるべき ● 公園に行きたくなる場所が公園内にあると良い ● ブランド発信拠点としての可能性は大いに感じる ● 勾当台公園のはっきりとしたイメージが浸透すれば、市民活動や経済活動についても活性化される ● 勾当台公園は、仙台駅前エリアに対する武器となる。市役所内の様々な部署を巻き込み、この再整備事業に取り組んで欲しい ● 公園を作り続ける工夫が必要、市民に公園を「自分の庭」として作りこませる仕掛けを構築。公園は普段使う市民が作っている場 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子供達が植物に触れることができる空間、彫刻に触れて遊べる空間があると良い ● 定禅寺通側からの入口が必要 ● 合同庁舎側の緑道のようなエリアも公園敷地として活かすべき ● 土の空間をしっかりと確保し、土に水を返す構造を構築(地球温暖化対策) ● 都心のサードプレイスとして、緑を楽しみながらゆっくり憩える公園に、居心地のよい公園に ● 「日々進化し続ける公園」「人と人を結びつける公園」であることが大前提 ● 人が入れる芝生エリアを整備 ● 仙台市内の保存樹木で2~300年、仙台に根付いているような樹種に代えていくような植栽計画を ● 音楽やパークファニチャーなど工夫し、「居心地の良い公園」となるよう整備して欲しい ● サードプレイスというのが、勾当台公園には違和感がある 	<ul style="list-style-type: none"> ● 何万年もかけて形成された河岸段丘によって形成された街である事をアピール ● 彫刻は空間造形で緻密に調整して設置したものである。彫刻を動かすことはやめて欲しい ● 河岸段丘に水を流したりするような、資源を活かした面白い仕掛けづくりを導入 	<ul style="list-style-type: none"> ● 運営手法を早期に決定し、整備前に関係する団体等と話しを進める ● 市民広場は公園から外して「市役所の前庭」として低層部と一体的な広場とした方が良い(使い方が他のエリアと全く異なる) ● 維持管理については地域団体に任せ、維持管理費を地域に還元して活動する ● 公園利用者が100~500円程度の消費をするなど仕掛を検討 ● 勾当台公園は、「運営」を売りにするべき ● 勾当台公園は管理を市で行っているからつまらない公園となっている ● 公園における禁止事項を無くし、もっと自由に使える公園にして欲しい ● 管理運営は民間事業者任せ、柔軟な制度を構築するべき ● 公園のイメージ作りには不可欠であり、民間活動が大切となる ● つなぎ横丁も含め、民間の収入源になるような機能が必要(広告が掲出できる設備の整備など) ● 周辺エリアとの連携は必要不可欠(定禅寺通や仙台駅前)